

はじめに

世界のクルーズ市場は、クルーズ人口の急増と客船の大型化という、これまでにない大きな変化の中にある。

クルーズ人口は、2010年現在で約1750万人と、過去20年で4倍に増加している。客船の大型化は、東京港のレインボーブリッジをくぐれないサイズの客船が、1990年現在の2隻に対し2012年現在では131隻と、加速度的に進んでいる。これは、世界のクルーズ業界において、船舶を大型化し低価格な商品を提供することで客層を広げる戦略が主流となっていることが大きい。

アジアにおいては、中国を中心とする経済成長を背景に、今後のクルーズ市場の飛躍的な成長が見込まれている。世界の船会社の間では、アジア地域の中でも経済的に安定している日本市場への期待が高く、ここ数年で、国内港への大型客船の寄港が急増している。日本国内のクルーズ人口もこれから増加していくことが確実視されている。このような中、首都の玄関口である東京港への期待は極めて高い。

クルーズ客船の寄港には、東京港のイメージアップ、臨海エリアにおけるMICE・国際観光拠点化の推進、大きな経済効果という3つの効果が期待できる。特に、乗員乗客で数千人に及ぶ大型クルーズ客船の場合、一度の寄港で数億円という経済効果が既に実証されている。

日本の首都、そして国際観光都市である東京は、これらの情勢に適切に対応しなければならない。首都東京への寄港ニーズに、東京港は責任を持って応えるとともに、寄港による効果を確実に取り込むことで、東京ひいては日本の成長戦略を力強く牽引していかなければならない。

東京港は、1964年の東京オリンピック開催に合わせて晴海客船ふ頭が整備されて以来、高度経済成長、平成バブル景気やその崩壊など時代の変遷を見ながらも、半世紀近く、首都の玄関口として多くの客船を受け入れてきた。

そして2020年、東京は2回目のオリンピックを迎える。

当ビジョンは、オリンピック・パラリンピック開催都市である東京として、東京港へのクルーズ客船誘致に係る基本的な方向性をハード・ソフト両面から再構築するため、概ね15年後の目標設定及びその実現に向けた取組をまとめたものである。

なお、当ビジョンの策定にあたっては、学識経験者、東京港利用者及び関係行政機関等で構成する「東京港クルーズ客船誘致促進ビジョン策定委員会」を設置し、幅広く意見を集約し、深く議論を重ねてきた。

東京港は、当ビジョンを基本的指針として、今後、更なるクルーズ客船誘致施策を積極的に展開していく。